

4 . 2 0 0 3 年度の業績見通し

当社の業績は、第2、第3四半期の営業利益が2期連続で前年を上回るなど回復基調にあります。また、市場は本格的なユビキタス社会の到来が現実のものとなりつつあり、デジタルAV機器の需要が一気に本格化し、また世界的にローカルな公共サービスからグローバルなビジネスまでの幅広い範囲で、IT投資に新たな成長の兆しが見られてきております。当社にとってはサーバ、ストレージなどのブロードバンド・ネットワークインフラからソリューション/ SI、アウトソーシングまで中長期的な需要の増加が期待される状況にあります。

一方で、半導体などを中心としたテクノロジーの進歩が加速し、生産・調達など競争のグローバル化により、ハードウェアだけでなくソフトウェア・サービスでも価格競争が激化しております。IT市場は、当面は需要の量的な拡大は望めるものの、それがそのまま金額の拡大に繋がらず、高い収益を確保することは厳しい状況にあります。

当社は、グローバルグループベースでビジネス構造の徹底的な効率化を進めるとともに、ハードウェアだけでなくソフトウェア・サービスを含めた「ものづくり」の革新に取り組み、品質向上や価格競争力の強化を追求しております。さらに“TRIOLE”のコンセプトに基づきサービスとプロダクトの連携強化のために積極的に先行投資を行い、システムの構築・運用などにおいて差異化を実現、あわせてグローバルでの連携も充実してまいります。これらにより、当社事業の継続的な強化を図り、これからの市場構造の大きな変化をリードする強い事業基盤を築いてまいります。

注)“TRIOLE”とは社会・企業活動に要求される「ビジネスの成長・拡大」「スピーディーな業務提携」「システムの安定運用・TCOの削減」を実現する当社の提供するIT基盤です。

当年度の通期の業績につきましては、売上高は前回公表した計画通りです。営業利益は、プラットフォームではパソコンの価格低下の影響はあるものの、サーバ、ストレージを中心にこれを補います。一方、ソフトウェア・サービスは価格競争激化およびプロジェクトの採算性悪化により前回の計画に届かない見込みですが、電子デバイスはほぼ予測通りの進捗であり、全体では年初の計画を維持できる見込みです。経常利益につきましては、ファナック社が持分法対象会社からはずれたことによる持分法利益の減少と、円高の進行による為替差損の発生により、100億円減額し、500億円といたします。当期純利益につきましては、営業外損益の悪化を特別利益で補い、年初計画通りの300億円を達成する見込みです。

< 通 期 (連 結) >

	2003年度 (予想)		10月公表比	(単位：億円)	
	2002年度 (実績)				
売上高	47,500	-		46,175	
営業利益	1,500	-		1,004	
経常利益	500	▲ 100		123	
当期純利益	300	-		▲ 1,220	

上記見通しには、主要市場における製品・部品の需給動向（日本及び欧米など）為替相場、日米の株式市況などに不透明な面があり、実際の業績は見通しと異なる場合がありますことをご承知お願います。